

令和6年度 調査研究報告書

**「子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育を推進
するための校長の役割Ⅲ」**

福 井 県 小 学 校 長 会
福井県小学校長会調査研究委員会

はじめに

福井県小学校長会長 氣谷 達郎

令和6年8月27日、中央教育審議会は文部科学大臣に対し、教員確保に向けた答申を行いました。この答申では、「働き方改革の更なる加速化」「指導・運営体制の充実」「教師の処遇改善」のための方策が工程表とともに示されています。また、同月29日には、文部科学省から令和7年度概算要求が公表されました。概算要求には、「質の高い公教育の再生」を目指し、教職調整額の改善や、学級担任・管理職への手当の充実、中学年への教科担任制の拡充などが盛り込まれています。今後の財務省の査定や予算案の作成がどのようなになるかは不透明ですが、『令和の日本型教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備」の進展が期待されます。

近年の報道の影響などもあって、今日の公教育ではこのような教員の働き方や処遇の話題ばかりに注目が集まりがちです。しかし、私たちが真に目指しているのは、子どもたちが未来に向かって生きる力を育むことです。そのためにこそ、教員不足の解消や処遇改善が重要であることを忘れてはなりません。県内のすべての小学校では、各校および地域の特色や実態に応じた教育課程を編成し、学習指導要領の理念を実現するために取り組んでいます。また、働き方改革も工夫しながら進めていますが、その中で成果とともに課題も生じています。

これらの課題を念頭に置きつつ、本年度も、会員の皆様のご協力と調査研究委員会の尽力により、調査研究報告書「子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育を推進するための校長の役割Ⅲ」が作成されました。本報告書には、全連小と連携した調査項目に加え、県内会員の要望に基づく独自の項目も含まれています。この調査を通じて、私たち校長が何を優先し、どのように対応すべきと考えているかがより明確になっています。また、前年度や全国の調査結果と比較することで、学校経営の今日的な課題が一層浮き彫りとなっています。

本報告書は、日々の学校経営に役立つ多くの示唆を提供しています。私たち校長は、組織の力を結集し、課題解決に取り組むとともに、教育改革の動向を的確に把握しながら、積極的に政策提言を行い、県民や国民の信頼に応えていかなければなりません。そのためには、調査結果をもとに現状を深く認識し、明確なビジョンを持ち、計画と実行を通じて成果をあげることが求められます。私たちは校長としての使命を胸に刻み、未来に夢と希望を持ってたくましく生きる子どもたちを育てるために、引き続き活力ある学校づくりに全力を尽くしていきましょう。

最後になりますが、本調査研究報告書の発行にあたり、調査項目の設定、データの集計、整理、分析、そして報告書の執筆に尽力された調査研究委員の皆様、および調査にご協力いただいた各小学校長の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。